【主催】美術科教育学会（乳・幼児造形研究部会）・日本発達心理学会（東海地区）

2014年度美術科教育学会リサーチフォーラムin愛知

＜美術科教育学会・日本発達心理学会共催シンポジウム＞

アートと心理

ー子ども・環境・保育者の相互作用において生起するアートの心理的プロセスー

【シンポジスト】

・秋田喜代美（東京大学大学院教育学研究科）

「園生活における子どもの表現とアート：心理学者の視点から」

・磯部錦司（椙山女学園大学教育学部）「今日的アートの概念とプロセスにある意味」

＜実践報告＞「子どもの生活とアートの中にみる心理的プロセス」

・福田泰雅（社会福祉法人赤碕保育園　園長）

・伊藤裕子（学校法人裕学園谷戸幼稚園　園長）

・カンチェーミ ジュンコ（横浜インターナショナルスクールＥＬＣ(幼児部）ディレクター）

【ファシリテーター】

朴信永（椙山女学園大学教育学部）

【定員】200名。事前申し込み不要。 参加費無料。

【問合せ先】椙山女学園大学教育学部内（朴研究室）shinyoung@sugiyama-u.ac.jp

椙山女学園大学　生活科学部棟B11

（名古屋駅より地下鉄東山線「星が丘駅」下車、徒歩5分）

子どもの生活は「表現すること」によって支えられているといっても過言ではありません。今日，子どもの興味や言葉，姿から保育を構想し，その保育活動の中核に「アート」を位置づけ，子どもの主体的な生活や遊びを展開させようとする実践が注目を浴びています。そのような実践においては、子どもにおける積極的な造形活動は生活そのものであるといえるでしょう。保育の現場では，表現活動そのものを生活ととらえ，生活環境のなかで生まれる喜びや気づき，感動などを表現とつなげることによって，子どもの創造性や感性を引き出す豊かな表現活動が繰り広げられています。このようなプロセスを心理学ではどのようにとらえることができるのでしょうか。また，同じプロセスをアートの視点からはどのように意味づけすることができるのでしょうか。薬本（2011）は，美術活動をする人は「人間とは何か」,「人間はどのような存在なのか」などを理解しなくてはならないと述べ，そのために心理学を学ぶ必要があることを示しています。

本シンポジウムでは，現場の保育実践をもとにしながら，心理学とアート，両方の視点で子どもの表現活動を解釈してみることにより，子どもの造形表現の裏に在るこころの作用をより深く探究していきます。子どもが造形表現するプロセスをアートと心理学の視点で広く，深く掘り下げてとらえていきます。そこから得られた知見が、子どもの感情や想像力へと還元されていくことを期待します。子どもと表現活動の幸せな関係を心理学とアートの両視点から深めることができればこの上ない幸せです。

2014年12月6日（土）13:30～16:00